

③ 公開実用新案公報 (U)

昭56—129624

④ Int. Cl.<sup>3</sup>  
F 16 D 65/04  
55/224

識別記号

庁内整理番号  
7609—3 J

⑤ 公開 昭和56年(1981)10月2日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑥ ディスクブレーキ

⑦ 実 願 昭55—28421

⑧ 出 願 昭55(1980)3月5日

⑨ 考 案 者 野村佳久

豊田市井上町11丁目1番地

⑩ 考 案 者 池田光男

知立市谷田町西長根17番地

⑪ 出 願 人 トヨタ自動車工業株式会社

豊田市トヨタ町1番地

⑫ 出 願 人 アイシン精機株式会社

刈谷市朝日町2丁目1番地

⑬ 代 理 人 弁理士 神戸典和 外1名

⑭ 実用新案登録請求の範囲

一 両側に摩擦面を備えて回転するディスクロータと、

該ロータの該摩擦面に対向して配設された一対のパッドと、

該一対のパッドを前記摩擦面に夫々押圧するアクチュエータと、

位置固定に設けられて事記一対のパッドを前記ロータの軸心と平行な方向に移動可能に支持するトルクメンバーと、

該トルクメンバーに掛止された掛止部と該掛止部に続いて前記パッドの後方に配置されたスプリング部と該スプリング部から前記ロータの前記摩擦面に向つて延びるとともにその一部が前記パッドの側端部に接触して該スプリング部の弾性変形に基づく押圧力を該パッドに対して前記ロータの前記摩擦面と平行方向に作用させる作用部とを備えたアンチラトルスプリングと

を含むディスクブレーキにおいて、

前記アンチラトルスプリングの前記作用部を、前記ロータの前記摩擦面に接近するにつれて前記パッドの中央部に向う方向に所定の曲率で湾曲さ

せることにより、前記作用部における前記パッドとの接触位置が該パッドの摩耗に伴つて前記スプリング部から遠ざかり、該スプリング部に作用する曲げモーメントが増大した場合でも、該パッドに与えられる前記押圧力がほぼ一定に維持されるようにしたことを特徴とするディスクブレーキ。

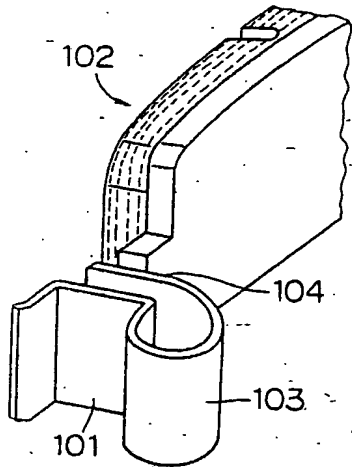
図面の簡単な説明

第1図は従来のディスクブレーキにおけるパッドとアンチラトルスプリングとを示す斜視図、第2図は第1図に示すパッドの位置と押圧力の関係を示す説明図、第3図は本考案の一実施例であるディスクブレーキの平面図、第4図は第1図におけるIV—IV断面図、第5図は第3図に示すディスクブレーキに含まれるインナパッドとアンチラトルスプリングを示す斜視図、第6図は第5図に示すインナパッドの位置と押圧力との関係を示す説明図である。

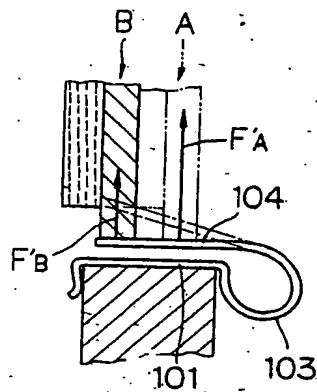
1：ディスクロータ、2、3：摩擦面、4：トルクメンバー、7：キャリパ、8：インナパッド、9：アウトパッド、25：アンチラトルスプリング、26：掛止部、27：スプリング部、28：作用部。

BEST AVAILABLE COPY

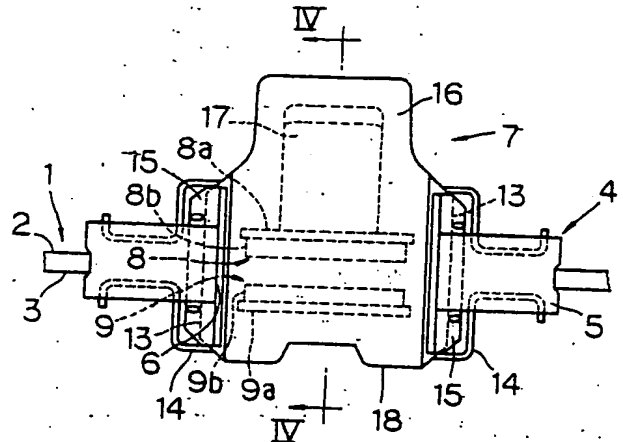
第1図



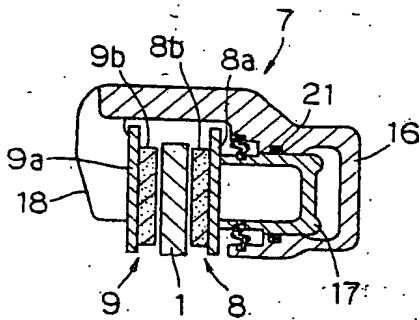
第2図



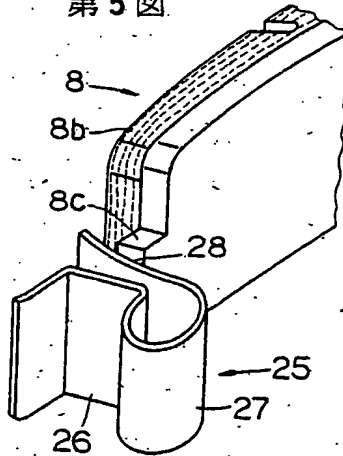
第3図



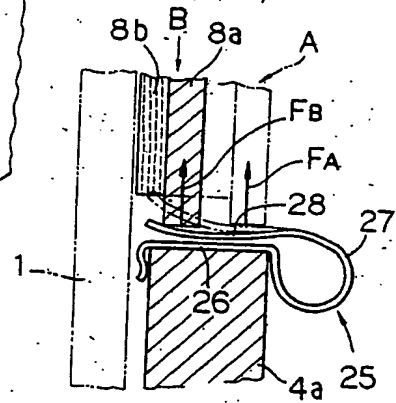
第4図



第5図



第6図



BEST AVAILABLE COPY